乗円寺寺報

2022年　3月

春のお彼岸号

寺報から訊く 寺報No33

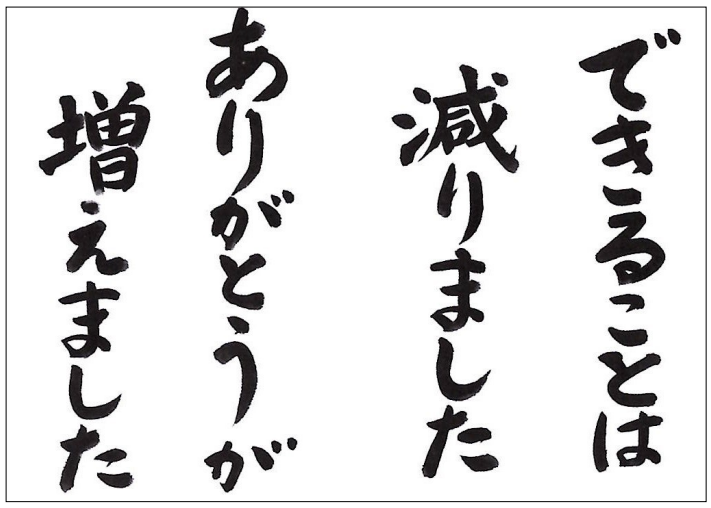
住職の独り言 ～佛様をお守りする生活～

２０１４年４月に乗円寺住職に就任させていただき、早いもので今度の４月で、１０年目に入ります。いろんなご縁をいただいて、たくさんの失敗をし、ご指導をもらいながら、今までなんとかやってきております。あらためて感謝申し上げます。

ここ数年はコロナ禍ということもあり、人との関わりが少なくなり、葬儀や法事で初めてお会いする方や、時間も限られる時が多くありました。それぞれのお宅に応じて、気の利いたお話やご説明をして、少しでも意味のある時間・場をつくっていければと思っていますが、反省することのほうが多いです。それでも温かいお声や、この寺報にも感想をいただくことで救われております。若めの住職であること（先日４３歳になりました）を活かしながら、声をかけやすい、身近な僧侶としてこれからもやっていけたらと考えておりますので、これからもどうぞよろしくお願いします。

私はひとりの人間として生活しながらも、お寺で佛様をお守りしながら生活しています。世の中が便利になってはいますが、コロナや、今起こっている戦争など、先行きは不透明であり、それぞれの悩みは今も形を変えて存在しています。年配の方と多く接する私は、いろんな想いからか、「早くお迎えに来てほしい」とのお声も聞きます。

生老病死に向き合ってきた佛様の傍にいる身として、自分が出来ることはなんなのか。自分の無能さを感じる時もありますが、ある法話会で聞いた、この言葉で自分のやるべきことが明確になりました。



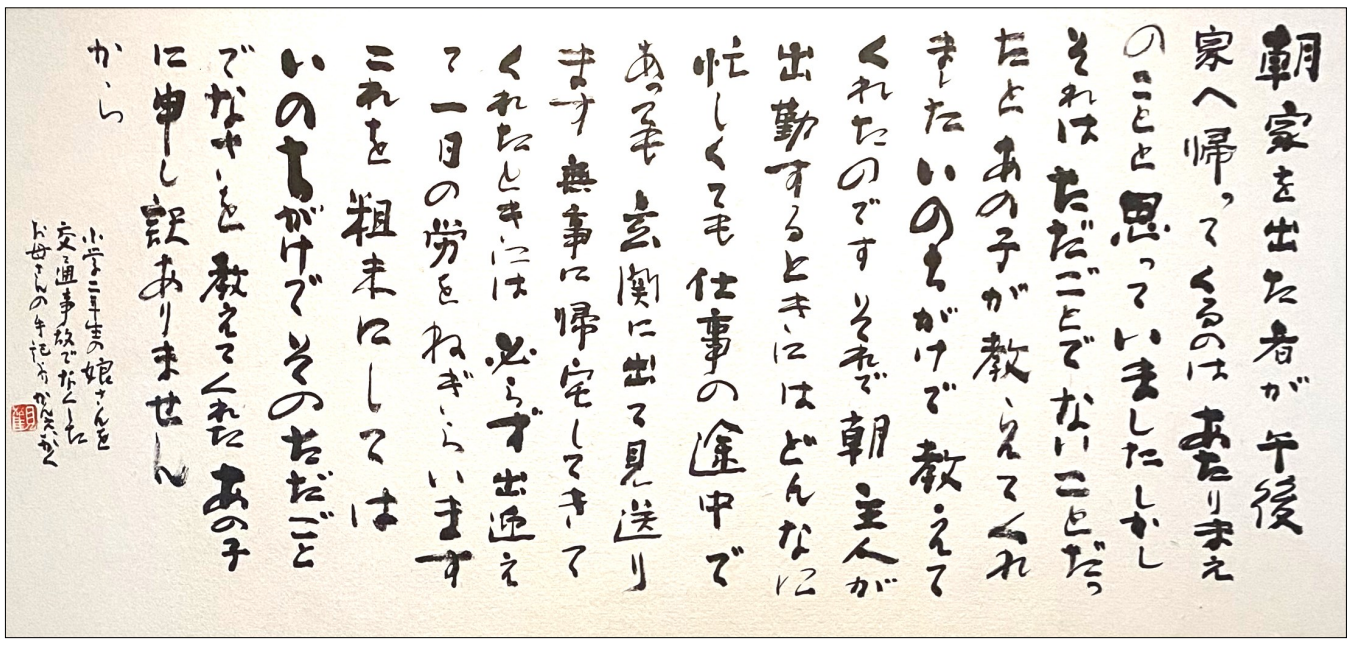
きっと年を重ねた方が、佛様の教えに出会って、物事の捉え方を見直したことから生まれた言葉だと思います。現在、乗円寺掲示板にも掲示してあります。補足の説明文として、「できることが増えたのは、いつ頃までだったろう。それが喜びであったが、歳とともに出来ない寂しさが増える。しかし、これもいのちの道理。できることが当たり前だと思えば、感謝などない。できないことが当たり前となれば、できることへの感謝となる。一つことができるのは、私の力だけではなかったのだから。」このように記載がありました。

佛様をお守りしながら生活し、教えを聞いていくということは、悩み・苦を抱えながら、いいことも、悪いこともご縁ととらえ、前に進んでいくことでもあると思います。誰にも必ず、できないこと、思い通りにいかないことはやってくる。そんな時でも、佛様は寄り添ってくれる。この言葉を知って以来、この〝ありがとう〟という気持ちをより多く生んでいくために、僧侶として仕事をしていこうと思うようになりました。

〝ありがとう〟を生んでいくためのひとつの方法として、自分の原点に返るというか、亡き人の想いに寄り添うこともあると思います。

今、金沢別院の廊下に掲示されている手紙です。（下記の手紙）

この手紙を読むと、いのちを粗末にしていると、自責の念に駆られます。それぞれが、いろいろなものを抱えて生きていますが、それでも、見えてくる気づきを大切に、前に進んでいる方がいます。



ご自宅のお内仏の佛様、お寺の佛様、お墓の佛様、皆さんの生活の中にも佛様が身近にいらっしゃいます。共に大切にしていきたいですね。合掌

春のお彼岸

春のお彼岸が近づいてきました。春のお彼岸は「春分の日」を中日として前後3日間、合わせて7日間が「お彼岸」の期間です。

この期間のお墓・納骨堂参りの際、お経を希望される方はお気軽にご連絡下さい。

外へお参りに出ているなど、不在のときもありますので、その場合は前もって、ご連絡いただくと助かります。

※その際のお布施は、皆さん月参りとか、お墓参り位の金額でされていますよ。先日、質問されましたので、あらためて記載しておきます。

旅立ち

春の新しいスタートを迎えていきます。それぞれのお立場で、お体を大切に、今出来ることを日々やっていきましょう。

この度、私の二人の子供（長女、長男）も新しい旅立ちをします。福田家は大学と高校のダブル受験でした。受験生のお子さん、お孫さんを持つ方は一緒だと思いますが、コロナ禍で、気を遣う部分がいろいろありました。

娘は県外へ行き一人暮らしをしながら、助産師の道に。息子は自分で決めた高校に。二人とも無事に進めたこと、嬉しく思っております。それぞれのスタートを見守りながら、自分も頑張っていかないといけないと気を引き締めています。（住職）

発行所：乗円寺　金沢市石引１丁目4-20　TEL076-221-3421　Fax076-221-3449　E-mail:info@jouenji.net　　印刷協力：川場印刷

ご要望、ご感想はお気軽にお問合せください。寺報、発送希望がございましたらお気軽に。乗円寺 ホームページにも寺報原稿有！「乗円寺 金沢市」で検索！